

2026年1月27日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証プライム /証券コード : 3762)

Python API 対応によるデータ操作の自由度拡大、開発生産性向上を支援 アーキテクチャ分析ツール「Lattix 2025.1.7 日本語版」の販売を開始

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢井隆晴、以下「テクマトリックス」）は、米国 CodeClinic LLC（本社：米国マサチューセッツ州、最高経営責任者：Frank Waldman、以下「CodeClinic 社」）が開発したアーキテクチャ分析ツール「Lattix」の最新日本語版「Lattix 2025.1.7」の販売を、2026年1月27日より開始します。テクマトリックスは、国内総販売代理店として、ソフトウェア開発に携わるお客様を対象に、本製品の日本国内での販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を展開してまいります。

CodeClinic 社のアーキテクチャ分析ツール「Lattix」は、ソフトウェアの構造と依存関係を DSM（Dependency Structure Matrix）を使って可視化するツールの草分けとして、自動車、FA 機器、複合機などの製造業をはじめ、医療機器や金融といったさまざまな業界で導入されてきました。巨大化と複雑化に悩まされるソフトウェア開発の現場において、ソフトウェアの構造上の問題検出、コード修正時の影響分析、あるいはリファクタリングなど、多様な目的で利用されています。ソフトウェア品質の評価におけるアーキテクチャ分析の重要性が高まっている現在、「Lattix」は、品質改善に欠かせないツールとして注目されています。

「Lattix 2025.1.7」では、Python API が新たにサポートされ、Lattix のプロジェクトから直接データの追加と抽出が可能になりました。これにより、これまで独自の LDI (Lattix Data Import) モジュールや Groovy スクリプトでおこなっていた要素間のマッピングや処理を、Python スクリプトで実施できるようになりました。データ操作の効率化と柔軟性が向上しました。また、Sturtevant (*) の論文に基づく構造複雑度分類によるリスク評価メトリクスが追加されました。リスクの高いファイルを検出および監視することで、ソフトウェア欠陥の予防が可能になりました。

さらに、おもに自動車業界で広く使われている AUTOSAR/ARXML、および要件管理ツール Jama に対して解析範囲を拡大しました。要素間の依存関係を可視化できるだけでなく、システム設計や要件からモデルやコードまでの複数ドメインを横断して繋がりを確認できるようになりました。これにより、トレーサビリティの観点からも Lattix の活用範囲が広がり、開発の品質向上を強力に支援します。新しい Lattix 2025.1.7 は、より一層高度なデータ連携とリスク管理機能を備え、開発現場での効率的な品質管理とリスク軽減を支援し、ソフトウェア開発の生産性向上に貢献します。

【Lattix 2025.1.7 の改善・拡張機能】

1. Python API の追加

Lattix Python API が新たにサポートされました。これにより、Lattix のプロジェクトから直接データの追加や抽出が可能となりました。Python API の導入により、従来 LDI (Lattix Data Import) モジュールを用いておこなっていた要素間のマッピングや Groovy スクリプトによる処理が、Python スクリプトで実施できるようになりました。これにより、Lattix の解析データに直接データの追加や抽出が可能

となりました。

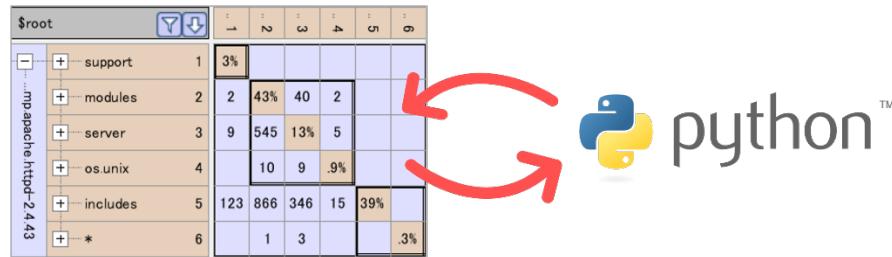


図 1. Python API による Lattix の解析データの活用

2. リスク評価メトリクスの追加

Sturtevant (*) の論文で説明されている手法を用いて計算された構造複雑度分類に基づくリスク評価メトリクスが追加されました。

構造複雑度が高いファイル (core) は、低いファイル (peripheral) と比較し、バグ密度（リスクの高さ）が 3.1 倍になるという検証結果があります。リスクの高いファイルを検出し、構造複雑度を監視することで、ソフトウェア欠陥の予防につながります。

タグ	VFI	VFO	複雑度	説明
peripheral	低	低	低	システムにあまり影響を与えない
utility	高	低	やや低	システムの大部分に依存されている
control	低	高	やや高	システムの動作を調整する
core	高	高	高	循環と相互依存のコードがある

図 2. メトリクス値による 4 つの領域分類

(*) 参考文献 :

Sturtevant, Daniel J., "System Design and the Cost of Architectural Complexity", Massachusetts Institute of Technology, 2013.

<https://dspace.mit.edu/handle/1721.1/79551>

3. AUTOSAR/ARXML や Jema の分析対象を拡張

AUTOSAR/ARXML や Jema に対応したことによって、要素間の依存関係を可視化するだけでなく、システム設計やシステムの構成情報、要件からモデルやコードに至るまでの複数ドメイン間の繋がりも確認できるようになりました。その結果、これまでのトレーサビリティにおける Lattix の活用範囲がさらに広がりました。

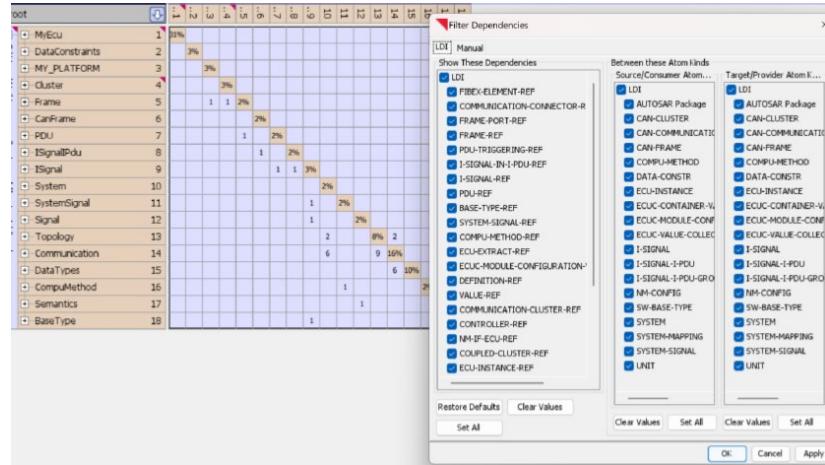


図 3. AUTOSAR/ARXML モジュールの DSM イメージ図

AUTOSAR/ARXML モジュールでは、ARXML ファイルをロードし、DSM で下記のような要素間の依存関係を可視化します。

- CAN-CLUSTER
- AR Packages
- CAN-FRAME
- NM-CONFIG
- ECU-INSTANCE
- SW-BASE-TYPE など

※詳細は、<https://www.techmatrix.co.jp/product/lattix/> をご参照ください。

- ・ **サポートプラットフォーム**
Windows (64bit) : 11／2022／2025
Linux (x86_64) : Ubuntu 22.04／24.04、Red Hat Enterprise Linux 9.2／9.3
- ・ **分析対象**
.NET、C／C++、Java、Python、Ruby、LDI、JavaScript、UML／SysML、Excel、Oracle、SQL Srv／Sybase、AUTOSAR／ARXML、Jama

- ・ **販売開始**
2026 年 1 月 27 日
- ・ **出荷開始日**
2026 年 1 月 27 日

2026 年 1 月 27 日において、保守サービスをご契約いただいている「Lattix」ユーザー様には、「Lattix 2025.1.7」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

■CodeClinic LLCについて

CodeClinic 社は、アプリケーションライフサイクル全般におけるソフトウェア品質およびセキュリティソリューションプロバイダーです。

詳細は Web サイト：<https://www.code-clinic.com/> をご参照ください。

■テクマトリックス株式会社について

テクマトリックス（東証プライム：3762）は、お客様のニーズに沿った最適な IT インフラと IT ライフサイクルをワンストップで提供する「情報基盤事業」、蓄積された業務ノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」、“医療情報をみんなの手に。そして、未来へ。”をテーマに健康な社会を支える医療情報インフラの構築に取り組む「医療システム事業」の 3 事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。

詳細は Web サイト：<https://www.techmatrix.co.jp/> をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

テクマトリックス株式会社 ソフトウェアエンジニアリング事業部 Lattix 担当

E-mail : lattix-info@techmatrix.co.jp

TEL : 03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。